

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	沖縄キリスト教学院大学
設置者名	学校法人沖縄キリスト教学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
人文学部	英語コミュニケーション学科	夜・通信	16		8	24	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.ocjc.ac.jp/ocu/ocu_syllabus/

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	沖縄キリスト教学院大学
設置者名	学校法人沖縄キリスト教学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/gaiyou/roll_yakuin/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	(現職) 日本基督教団沖縄教区 総会議長	2020.10.21 ～ 2023.10.20	建学の精神
非常勤	(現職) 沖縄銀行常務取締役	2020.10.21 ～ 2023.10.20	財務担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	沖縄キリスト教学院大学
設置者名	学校法人沖縄キリスト教学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 本学では「シラバス作成ガイドライン」に則り科目担当教員がシラバスを作成する。シラバスにおいては、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・マップ、また作成ガイドラインに基づき、各項目（授業形態、到達目標、授業の概要、各回の授業計画及び事前学習・事後学習、評価方法・評価基準、DPとの関連性 等）について明記している。その際、第三者（学部長、学科長、教学支援部長等）による点検作業を実施し、適正性に欠けるシラバスについては、担当教員へ修正を指示し、適正な内容へと改善を行っている。 シラバスは3月中旬に完成し、ホームページ上で公表している。シラバス活用については、履修登録ガイドと併せてWebシラバスの利用手順を提示し、履修オリエンテーション（3月下旬）において学生向けに周知している。	
授業計画書の公表方法	https://www.ocjc.ac.jp/ocu/ocu_syllabus/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 各授業科目の「評価方法」として、到達目標に対する学修成果の到達度を適切に評価できる方法及び割合を、シラバスにあらかじめ明示している。 (例：定期試験〇%、課題・授業外レポート〇%、小テスト〇% 等) また各授業科目の「評価基準」についても、到達目標で示した学修成果の到達度を評価する際にどこに着目するのか、具体的で客観的な判断基準として「授業別ルーブリック評価」を導入し、評価項目と評価基準について、初回講義時に学生に説明することとしている。 学則及び履修規程に従い成績評価と単位認定を行うが、成績表示と素点評価、評価内容については、学生便覧やホームページ上で説明している。 学習意欲の把握については、出欠状況管理システムを導入し、出欠情報を一元管理している。また、出欠調査結果を基に、アドバイザーによる学生指導を実施している。 (参考 ルーブリック利用ガイド： https://www.ocjc.ac.jp/2021/03/18/20210318_risyutourokuzenki/) (参考 成績評価について： https://www.ocjc.ac.jp/ocu/ocu_requirements/#seiseki	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

1. GP と GPA の算出方法

成績評価に対する GP は以下のとおりとする。

判定	成績表示	素点評価	GP
合格	秀 A	90 点以上	4
	優 B	80 点 ～ 90 点未満	3
	良 C	70 点 ～ 80 点未満	2
	可 D	60 点 ～ 70 点未満	1
不合格	不可 F	60 点未満	0
	欠 K	—	0
合格	認 P	—	—

GPA は、以下の計算式にて算出する。

$$GPA = \frac{\text{履修科目の換算点} [(\text{科目の単位数}) \times (\text{その科目で得た GP})] \text{の総和}}{\text{履修科目の単位数の合計}}$$

※小数点第2位まで表記し、第3位を四捨五入する。

※履修科目には、不可 (F) 及び欠 (K) の場合も含む。

2. GPA の対象外科目

以下の科目については、GPA の対象としない。

- (1) 教職関連科目で、卒業要件に算入しない科目
- (2) 協議に基づく他の大学又は短期大学で修得した単位を認定した科目。
ただし、本学と同一法人の併設短期大学を除く
- (3) 外国の大学又は短期大学への留学により単位を認定した科目
- (4) 大学以外の教育施設等で修得した単位を認定した科目
- (5) 入学前の既修得単位等を認定した科目
- (6) 編入学・転入学時に単位を認定した科目
- (7) 受講免除科目

3. 成績通知書及び成績証明書への記載について

各学期の成績評価結果をもとに、9月及び3月に累積 GPA を算出し、成績通知書及び成績証明書に記載される。

	4. 履修登録単位数の上限設定 単位の実質化として学生の自発的な学習時間を確保するために、GPA による以下の履修条件を設定し、適切に実施している。 (1) 履修科目の GPA が 3.00 以上の場合、当該学期における履修登録の上限を 25 単位とする。 (2) 履修科目の GPA が 2.00 以上から 3.00 未満の場合、当該学期における履修登録の上限を 22 単位とする。 (3) 履修科目の GPA が 2.00 に満たない場合、当該学期における履修登録の上限を 20 単位以下とする。 (4) 履修条件において、所属学科長との面談により承認された場合は、上記上限の限りではない。 5. GPA による表彰及び修学指導 GPA が高い学生への表彰や低い学生への修学指導を以下のとおり行う。 (1) 履修科目の GPA が 3.50 以上の場合、優秀学生として卒業時に表彰する。 (2) 履修科目の GPA が 1.50 に満たない場合、アドバイザーによる勧告・指導・助言を行う。 (3) 履修科目の GPA が 1.00 に満たない者には、学部長が退学を勧告することができる。 6. 客観的な指標に基づく成績の分布状況の把握については、「成績分布状況表」(※添付資料)を作成する。 ※関連規程 沖縄キリスト教学院大学履修規程 (成績評価と単位認定) 第 12 条 沖縄キリスト教学院大学履修規程 (GPA 制度) 第 13 条 ※添付資料 人文学部 (英語コミュニケーション学科)「成績分布状況表」
客観的な指標の算出方法の公表方法	https://www.ocjc.ac.jp/ocu/ocu_requirements/#GPA 及び学生便覧で公表 (学生便覧は新入生全員に配布)

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 沖縄キリスト教学院大学 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） (1)「仕えられるためではなく仕えるために」他者と協働し、キリストの精神を礎とした平和な地域社会・国際社会の実現へ貢献することができる（キリスト教・平和・社会貢献）。 (2) 高い人権意識と語学力を持って他者の考えや思いを理解するとともに主体性を持って自分の考えを表現し、平和的なコミュニケーションを実践することができる（語学力・社会的倫理観・コミュニケーション能力）。 (3) 他者の文化や社会、歴史や価値観が多様であることを深く理解し、寛容性と責任感のある地球市民として共生を目指し行動できる（多文化共生）。 (4) 修得した知識・技能を活かして地域社会の課題を発見・解決できる（地域貢献）。 英語コミュニケーション学科 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること 沖縄キリスト教学院大学学則 (卒業・学位) 第 44 条 本学に 4 年以上在学し、別表第 1 に掲げる所定の授業科目数及び単位数を修得した者には、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。 2 前項の規定により、卒業の要件として修得すべき所定の単位数のうち、第 31 条の 2 第 2 項に規定する授業の方法で履修し修得した単位は、60 単位を超えない範囲で認定する。 3 学長は、第 1 項の卒業を認定した者に対して、卒業証書・学位記を授与する。 4 卒業の認定および卒業証書・学位記授与は、3 月および 9 月に行う。 (学位の授与) 第 45 条 学長は、卒業を認定した者に学士（英語コミュニケーション学）の学位を授与する。 ●「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」を踏まえた上で、所定の授業科目数及び単位数を取得した学生に対し、学則第 44 条及び第 45 条に則り、卒業を認定し学位を授与する。
卒業の認定に関する 方針の公表方法	大学 https://www.ocjc.ac.jp/ocu/policy_ocu/ 学科 https://www.ocjc.ac.jp/ocu/ocupolicy_ecom/

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	沖縄キリスト教学院大学
設置者名	学校法人沖縄キリスト教学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.ocjc.ac.jp/wp-content/uploads/2021/06/0705_taisyakutaisyohyou2020.pdf
収支計算書又は損益計算書	「資金収支計算書」 https://www.ocjc.ac.jp/wp-content/uploads/2021/06/0702_sikinsyusikeisansyo2020.pdf 「活動区分資金収支計算書」 https://www.ocjc.ac.jp/wp-content/uploads/2021/06/0703_katudoukubunsikinsyusikeisansyo2020.pdf 「事業活動収支計算書」 https://www.ocjc.ac.jp/wp-content/uploads/2021/06/0704_jigyokatudousyusikeisansyo2020.pdf
財産目録	https://www.ocjc.ac.jp/wp-content/uploads/2021/06/0706_zaisanmokuroku2020.pdf
事業報告書	https://www.ocjc.ac.jp/wp-content/uploads/2021/06/0801_jigyohoukoku2020.pdf
監事による監査報告(書)	https://www.ocjc.ac.jp/wp-content/uploads/2021/06/0701_kansa2020.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:2021年度事業計画 対象年度:2021年度)
公表方法: https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/johokokai/#0202a
中長期計画 (名称:沖縄キリスト教学院第4次中長期五カ年計画 対象年度:2017年度~2021年度)
公表方法: https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/johokokai/#0800

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/johokokai/#0301

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/johokokai/#joho03

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人文学部 英語コミュニケーション学科
教育研究上の目的（公表方法： https://www.ocjc.ac.jp/ocu/mokuteki_ocu/ ）
（概要） 人文学部 沖縄キリスト教学院大学は、建学の精神、大学の使命・目的、及び基本理念を踏まえ、人文学部の教育目的・理念を以下のように定める。 （１）聖なるものへの畏敬の念を養う （２）多様性の中に調和を求める心を養う （３）人類の福祉の向上に貢献できる能力を養う （４）グローバル化・情報化・複雑化社会に対応する能力を涵養する
英語コミュニケーション学科 国際化・グローバル化する世界の文化・経済・政治等の国際交流の場において、事実上の国際共通語（de facto international language）となっている英語において、高度のコミュニケーション能力をもって、効果的かつ分別をもって運用できる人材を育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法： https://www.ocjc.ac.jp/ocu/ocupolicy_ecom/ ）
（概要） 英語コミュニケーション学科 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法： https://www.ocjc.ac.jp/ocu/ocupolicy_ecom/ ）
（概要） 英語コミュニケーション学科 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー） 1. キリスト教関連科目や初年次教育、英語を使ったディスカッション・ディベートの授業、3・4年次の論文執筆・共同プロジェクト、異文化コミュニケーション等の科目をとおして、自己受容と他者への共感力を養い、他者と平和的関係を築くためのコミュニケーション能力を育む教育を行う。 2. 初めの2年間のオーラル・文法／作文・講読の英語コア科目から上級ライティング、翻訳通訳まで4年間をとおして「汎用的技能」として英語能力を高める。CEFR等のルーブリック方式を活用した客観的基準で評価できる英語コミュニケーション力を養う教育を行う。また英語によるプレゼンテーション能力・自己表現力・情報発信力を育む教育を行う。 3. 国際平和学、インターンシップを含めた社会学習、実践的なコミュニケーション能力を涵養する多様な教養科目をとおして、高度にグローバル化していく世界で協働・行動するための能力や判断力を育む教育を行う。 4. 沖縄研究、異文化理解、海外研修・実習、ビジネス関連科目等をとおして、グローバル化する世界の中で地域社会の多様化・流動化に対応するための知識と行動力を養う教育を行う。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：https://www.ocjc.ac.jp/ocu/ocupolicy_ecom/)

(概要)

英語コミュニケーション学科

入学者受入れの方針 (アドミッション・ポリシー)

＜教育理念＞

「国際共通語」である英語と高度なコミュニケーション能力を駆使し、多様化する地球・沖縄社会で、自信を持って活躍する人を育てます。

＜求める人物像＞

1. 沖縄と世界の架け橋になるために必要な知識と技能の取得に努力する学生を求めます。
2. 英語を自由自在に使いこなし、英語を使って社会で活躍したい学生を求めます。
3. まわりの情報にふり回されることなく、自分で考え自分で判断しようとする学生を求めます。
4. 社会のなかで他人の意見も尊重しながら自分自身を表現し、周りの人と力を合わせるための基礎的なコミュニケーション力がある学生を求めます。
5. 様々な社会の課題に関心を持ち、自ら進んで学ぶ意欲のある学生を求めます。

＜高等学校で履修すべき科目や取得しておくことが望ましい資格等＞

どの科目も積極的に学んでください。高等学校の教育課程の幅広い履修を通して、沖縄や世界の抱える課題について関心を持つことを期待します。学内外での学習や部活動、ボランティア活動や地域社会での活動を通して、人の話を聴く力、自分の意見を表現する力、人と積極的に関わる力の向上に取り組んでください。また多様な背景をもつ人たちと交流することで、自分とは違った価値観や考えに触れる機会を持ってください。本学での学びを最大限に生かすために、実用英語技能検定準2級レベル以上の英語力を身につけていることが望ましいです。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/johokokai/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	1 人	－					1 人
人文学部	－	7 人	6 人	2 人	人	人	15 人
	－	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
1 人		35 人					36 人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://www.ocjc.ac.jp/ocu/faculty_ocu_ecom/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
「沖縄キリスト教学院大学F D委員会」を設置し、教育内容・方法等の改善を図るため、様々なF D活動を全学的に行っている。							
【主な活動内容】							
・各種アンケートの実施（新入生アンケート、授業改善アンケート、学生生活実態調査、満足度調査、卒業時アンケート）							
・ティーチング・アワード及び授業参観の実施							
・学生F Dワークショップの実施							
・F Dワークショップの実施							
・英文法科目、英語講読科目、Oral Communication 科目においては、毎学期開始前に非常勤講師を含む科目担当者へ、講義全般にかかる共通確認や意見交換会を実施。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人文学部	90 人	67 人	74.4%	390 人	384 人	98.5%	15 人	12 人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	90 人	67 人	74.4%	390 人	384 人	98.5%	15 人	12 人
(備考)								

b. 卒業生数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人文学部	99 人 (100%)	0 人 (0%)	77 人 (77.8%)	22 人 (22.2%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	99 人 (100%)	0 人 (0%)	77 人 (77.8%)	22 人 (22.2%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項) 主な就職先 (株) 沖縄銀行 沖縄県信用保証協会 沖縄県農業協同組合 (JA おきなわ) ハイアットリージェンシー那覇沖縄 光文堂コミュニケーションズ (株)
(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
人文学部	104 人 (100%)	46 人 (44.2%)	34 人 (32.7%)	24 人 (23.1%)	0 人 (0%)
合計	104 人 (100%)	46 人 (44.2%)	34 人 (32.7%)	24 人 (23.1%)	0 人 (0%)
(備考) ・2021 年 3 月 31 日現在。 ・入学者については、10 月入学生、編入学生は含まない。 ・留年者数には、留学等の休学により在籍不足となる学生（30 人）を含む。 ・中途退学者については、除籍（2 人）を含む。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 授業科目について、本学では「シラバス作成ガイドライン」に則り科目担当教員がシラバスを作成する。シラバスにおいては、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・マップ、また作成ガイドラインに基づき、各項目（授業形態、到達目標、授業の概要、各回の授業計画及び事前学習・事後学習、評価方法・評価基準、DP との関連性 等）について明記している。その際、第三者（学部長、学科長、教学支援部長等）による点検作業を実施し、適正性に欠けるシラバスについては、担当教員へ修正を指示し、適正な内容へと改善を行っている。 シラバスは 3 月中旬に完成し、ホームページ上で公表している。シラバス活用については、履修登録ガイドと併せて Web シラバスの利用手順を提示し、履修オリエンテーション（3 月下旬）において学生向けに周知している。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要) 学修の成果に係る評価は、各授業科目の「評価方法」として、到達目標に対する学修成果の到達度を適切に評価できる方法及び割合を、シラバスにあらかじめ明示している。 (例：定期試験〇％、課題・授業外レポート〇％、小テスト〇％ 等) また各授業科目の「評価基準」についても、到達目標で示した学修成果の到達度を評価する際にどこに着目するのか、具体的で客観的な判断基準として「授業別ルーブリック評価」を導入し、評価項目と評価基準について、初回講義時に学生に説明することとしている。 客観的な指標として GPA 制度を採用しており、活用状況については下記 URL にて公表している。 卒業の認定に当たっては、以下の「卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）」を踏まえた上で、所定の授業科目数及び単位数を取得した学生に対し、学則第 44 条及び第 45 条に則り、卒業を認定し学位を授与している。 【沖縄キリスト教学院大学】 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） (1) 「仕えられるためではなく仕えるために」他者と協働し、キリストの精神を礎とした平和な地域社会・国際社会の実現へ貢献することができる（キリスト教・平和・社会貢献）。 (2) 高い人権意識と語学力を持って他者の考えや思いを理解するとともに主体性を持って自分の考えを表現し、平和的なコミュニケーションを実践することができる（語学力・社会的倫理観・コミュニケーション能力）。 (3) 他者の文化や社会、歴史や価値観が多様であることを深く理解し、寛容性と責任感のあ

る地球市民として共生を目指し行動できる（多文化共生）。 （４）修得した知識・技能を活かして地域社会の課題を発見・解決できる（地域貢献）。 【英語コミュニケーション学科】 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること 【沖縄キリスト教学院大学学則】 （卒業・学位） 第44条 本学に4年以上在学し、別表第1に掲げる所定の授業科目数及び単位数を修得した者には、教授会の議を経て学長が卒業を認定する。 2 前項の規定により、卒業の要件として修得すべき所定の単位数のうち、第31条の2第2項に規定する授業の方法で履修し修得した単位は、60単位を超えない範囲で認定する。 3 学長は、第1項の卒業を認定した者に対して、卒業証書・学位記を授与する。 4 卒業の認定および卒業証書・学位記授与は、3月および9月に行う。 （学位の授与） 第45条 学長は、卒業を認定した者に学士（英語コミュニケーション学）の学位を授与する。				
学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 （任意記載事項）	履修単位の登録上限 （任意記載事項）
人文学部	英語コミュニケーション学科	124 単位	㊦・無	※最大 25 単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
GPAの活用状況（任意記載事項）		https://www.ocjc.ac.jp/ocu/ocu_requirements/#GPA		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法： ・学生による授業改善・評価アンケート結果 https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/johokokai/#johol1 ・学生生活実態調査報告書 https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/johokokai/#johol2 ・学生満足度調査 https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/johokokai/#0305 ・資格取得奨励金給付実績 https://www.ocjc.ac.jp/campuslife/support_official/		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： 教育環境： https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/gaiyou/info_edu/ 校地・校舎： https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/gaiyou/kouti/ キャンパスマップ： https://www.ocjc.ac.jp/gakuin/gaiyou/cmap/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
人文学部	英語コミュニケーション学科	660,000 円	130,000 円	220,000 円	教育充実資金（年額） 休学中の在籍料（年額）

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） 1. 奨学金 意欲と能力があり、経済的理由により、学費援助を必要とする学生のために本学独自の奨学金があり、すべて給付型（返還不要）である。 2. 学習支援センター 学生チューターとセンター員（教員）を配置し、英語など、在学生の学習を支援している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） 1. 就職について キャリア支援課において、徹底した「個別支援」、きめ細やかな就職支援を行っている。 （１）個別相談・個別支援（対面、オンライン） （２）進路セミナー（６月） （３）キャリア&アカデミックプランニング講座 （５）就職ガイダンス（Tcafe） （６）オンライン就活体験★4Days （７）業界研究 cafe （８）学内企業説明会の開催（対面、オンライン） ①学内企業説明会/就職説明会 （９）各種資格/試験対策講座の開講 ①英検対策講座 ②日本語検定３級対策講座 （１０）採用試験対策 ①一般常識模擬試験 ②SPI模擬試験 （１１）講義との連携 （１２）保護者向け就職情報の提供 （１３）県外就職促進事業 （１４）資格取得奨励金給付（英検、TOEICを含め英語系資格取得者への奨励金） 2. 進学について 大学院進学についての各種相談、情報提供等を学生課にて行っている。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
（概要） ・学生一人ひとりに入学と同時に担当教師（アドバイザー）を決定し、何でも気軽に話し合える関係づくりと学生のアカデミックライフの資質向上を目標としたオフィスアワーの体制をとっており、学生個々人の豊かな自己発展につながるよう支援している。 ・専門のカウンセラーによる面談・メールでの相談を受けている。

- ・毎年４月（復学者は９月）に健康診断を実施し、学生の身体状況を把握している。結果により校医等による相談・指導などフォローアップを行っている。
- ・障害学生に対しては、規程を整備し全学生が等しく情報を共有できるよう大学全体でサポートできる体制を整えている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：<https://www.ocjc.ac.jp/eduinfo/>